下記につき、講義時の配布内容を若干変更したので掲示します。

記

大阪学院大学経済学部
情報経済論（平成１０年度後期）期末テスト問題
（形式のみ）

1999年2月10日
鬼木　甫

下記の(A)～(E)の文章は、それぞれ一部に誤りあるいは不適切な部分を含み、また不十分な説明で終わっている。(A)～(E)の５問から２問を選択して、それぞれの文章を書き改め、また詳しい説明や具体例を書き加えて、正しい内容をなるべく豊富に持つ文章を作成せよ。

注意：１．持込無制限とする。
２．答案文章としては、自身で書き下した文章である場合を高く評価する。
３．答案中に他資料を引用する（書き写す）ことは認めるが、１回の引用が１行を超える際には、下記(i)(ii)にしたがって引用元を明らかにすること。１行を超える無断引用があった場合、引用元の如何を問わず、答案無効となるので注意すること
(i)　教科書（テキスト)、教室配付資料、WWW配付資料の場合、引用部分の前後に［　］（角カッコ）をつけること。
(ii) 上記以外の資料からの引用の場合、引用部分の前後に〈　〉（不等号カッコ）をつけ、引用元（著者名、書物・雑誌等名、発行者、刊行年月日、引用ページ番号など）を明記すること。

(A)
(B)
(C)
(D)
(E)

大阪学院大学経済学部
情報経済論（平成１０年度後期）期末テスト問題

1999年2月10日
鬼木　甫

下記の(A)～(E)の文章は、それぞれ一部に誤りあるいは不適切な部分を含み、また不十分な説明で終わっている。(A)～(E)の５問から２問を選択して、それぞれの文章を書き改め、また詳しい説明や具体例を書き加えて、正しい内容をなるべく豊富に持つ文章を作成せよ。

注意：１．持込無制限とする。
２．答案文章としては、自身で書き下した文章である場合を高く評価する。
３．答案中に他資料を引用する（書き写す）ことは認めるが、１回の引用が１行を超える際には、下記(i)(ii)にしたがって引用元を明らかにすること。１行を超える無断引用があった場合、引用元の如何を問わず、答案無効となるので注意すること
(i)　教科書（テキスト）、教室配付資料、WWW配付資料の場合、引用部分の前後に［　］（角カッコ）をつけること。
(ii) 上記以外の資料からの引用の場合、引用部分の前後に〈　〉（不等号カッコ）をつけ、引用元（著者名、書物・雑誌等名、発行者、刊行年月日、引用ページ番号など）を明記すること。

(A)　生物の種や社会の発展段階を見ると、それぞれの進歩に必ず「情報量の増大」が伴っている。

(B)　一般に経済活動には、不確実性やリスクがつきもので、そこからさまざまな「失敗」が生ずる。これを防ぐには何らかの「情報」が必要・有用である。

(C)　著作権や特許権は、情報を「財」として交換の対象とすることから生じた。それは、情報が、一般の財と同じように市場メカニズムの中に取り込まれてゆく傾向の例である。

(D)　米国と比較した上で、日本は、自動車や家電製品の生産において競争力を持っているが、情報分野のパーソナル・コンピュータやネットワークについては、見劣りがする。

(E)　経済資源として、電波周波数と土地は類似した性質を持っている。土地は私有財産として売買されているが、電波は売買の対象となっていない。